

江津、江津工業統合へ

28年度前後、場所は江津工業

県教委方針案

紙面編集・広田 佳史

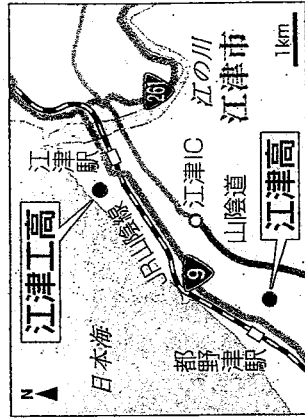
生徒数が減少している真立の江津高校（江津市都野津町）と江津工業高校（同市江津町）について、島根県教育委員会が21日、両校を統合する方針案を示した。新設校は2028年度前後に、現在の江津工業の場所で開校を目指し、普通科系の1学級と工業系学科2学級の1学年3学級を想定している。少子化が進む現状を踏まえ、教育の質を担保するためには統合が不可避と判断した。

7月中旬に地元関係者に説明会を実施。有識者で構成する県総合教育審議会で

具体的な議論を行い、年内の方針決定を目指す。統合が実施されれば、川本高と邑智高が統合して07年度に開校した島根中央高（島根県川本町川本）以来となる。

県議会一般質問で坪内涼二議員（江津選挙区）の質問に対し、野津建二教育長は「江津地域の子どもたちの選択肢を確保した上で充実した高校教育を提供し、卒業後の進路につなげることに最も重要だ」と述べ、統合が必要との考えを表明した。

普通科系1学級で看護、



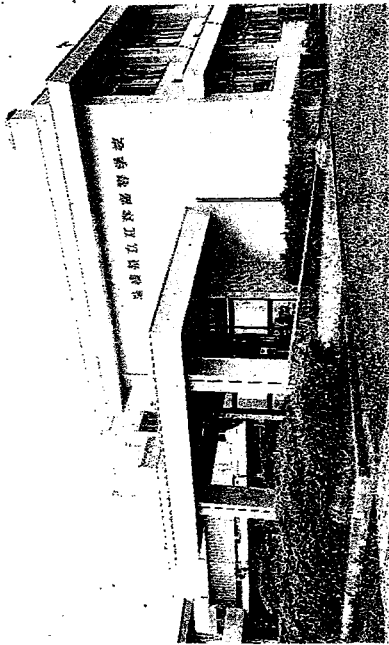
栄養、保育などの資格取得を目指すコースと文系進学コースを設定。工業系学科の2学級では機械、ロボット制御、建築、電気系のコースを設けることを想定し

ている。

両校は近年、生徒数の減少が顕著。全校生徒数はかつて江津高が600人（1学年5学級）、江津工業高は800人（1学年7学級）を超えたが、現在はそれぞれ180人、141人まで落ち込み、両校とも1学年2学級の状況が続く。28年度入学の入試で、いずれも定員80人の両校に対して集まったのは江津高が66人、江津工業高が45人だった。市内の中学卒業生は今後9年間で22.2%減となる見通しで、地元からの入学者の割合が1学年で40人に満たない状況になる可能性があるという。

統合方針案を受け、坪内議員は「いろいろな角度でこの問題を捉え、結論ありきで議論が進まないようお願いしたい」と述べた。

（自筆島）



江津高校の校舎—江津市都野津町



江津工業高校の校舎—江津市江津町

vol.50

賑わいついたわが子の顔を見て
1日眠ってぼっけがなくなったとか
1人で反省会をする日々です。

新築あるある。でやれや
うちのババがママ台機集録中
- 誰いくはなももか

6A2204